

キウイフルーツ「東京ゴールド」におけるフルメットの効果検討

河野 章・窪田理美  
(園芸技術科)

---

【要 約】キウイフルーツ「東京ゴールド」はフルメット処理によって肥大促進効果が得られる。「ヘイワード」より肥大効果が低いが、5 ppm 処理でも果実品質が低下することなく、果実重が約 40%増加する。

---

【目 的】

キウイフルーツ「東京ゴールド」(2009 年 11 月品種登録出願)は今後都内において普及が期待されている東京オリジナル品種である。ここでは、栽培が最も多い「ヘイワード」で果実肥大促進効果が確認されているフルメット(以下:FL)による「東京ゴールド」における果実肥大効果を明らかにする。

【方 法】

灰色低地土圃場の試験樹を供試樹として用いた。比較対象として、同一圃場で栽培している「ヘイワード」についても調査を行った。開花(東京ゴールド:5月18日,ヘイワード:5月30日)30日後にFL処理(1, 2.5, 5 ppm)を行い、開花後30日(FL処理時),60日,90日,120日および収穫時(東京ゴールド:10月28日,ヘイワード:11月5日)に果実肥大調査(縦径および横径)を行った。収穫後,エチレングスによる追熟処理(果実追熟剤:商品名「熟れごろ」)を行った11日後(常温保存)に果実品質調査を行った。

【成果の概要】

1. 果実肥大の様子:開花後30日(FL処理日)以降の果実肥大の様子を示した。開花後30~60日間の肥大量が最も多く、その後は緩やかな肥大曲線を示した。縦径より横径で肥大量が多かった(図1)。
2. 両品種ともに処理濃度が高くなるに従い肥大率が高くなったが、「東京ゴールド」は「ヘイワード」と比較して各処理区とも肥大率が低くなったものの、2.5ppmで約16%,5ppmで約40%の肥大効果があった。「ヘイワード」では処理濃度が高くなると糖度が低下したほか、果形が乱れ、果肉色が薄くなる(肉眼観察による)傾向がみられたが、「東京ゴールド」では糖度、酸度、果形に影響はみられなかった。果肉色についても黄色が薄くなる等の影響はみられなかった(表1)。
3. まとめ:キウイフルーツ「東京ゴールド」は満開30日後のフルメット処理によって肥大促進効果が得られる。「ヘイワード」より感受性が低いと考えられるが、フルメット液剤5ppm処理においても果実品質の低下はみられないことから、比較的高濃度での使用が可能と考えられる。

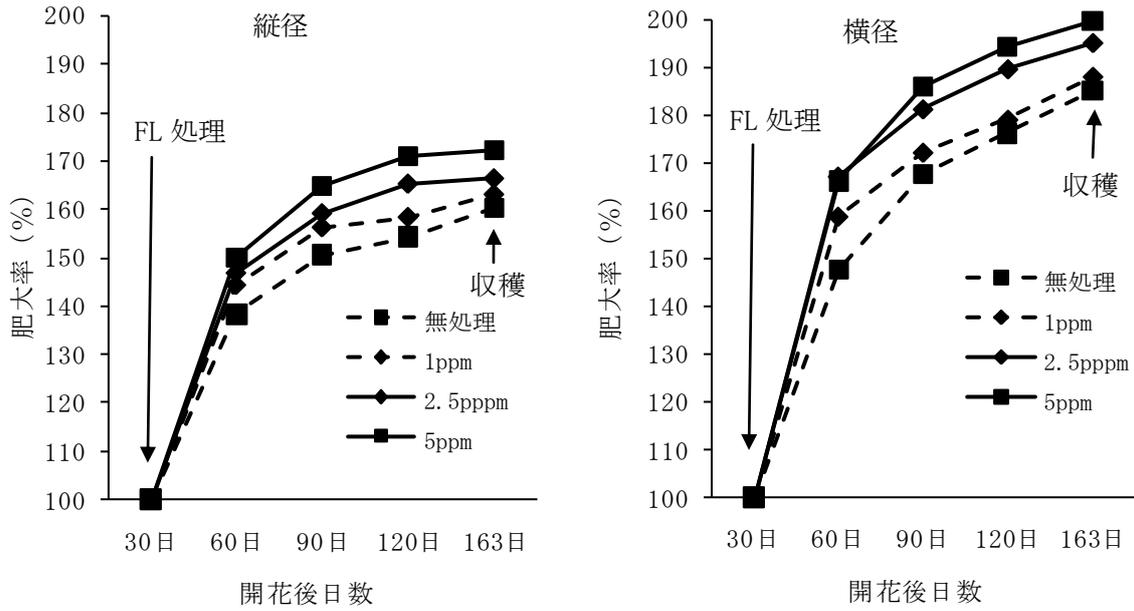


図1 「東京ゴールド」果実肥大の様子（開花30日後を100）

表1 フルメット液剤処理による果実肥大効果と果実品質に与える影響

品種	処理区	果実重 (g)	肥大率 (%)	糖度 (Brix%)	pH	硬度 (kg)	果肉色 <sup>a</sup>	果形の乱れ
東京ゴールド	無処理	82.6	100.0	16.0	3.7	0.3	3.1	なし
	1 ppm	85.5	103.5	16.0	3.7	0.3	3.2	なし
	2.5 ppm	95.6	115.7	15.8	3.7	0.3	2.5	なし
	5 ppm	113.7	137.7	15.8	4.1	0.3	3.2	なし
ハイワード	無処理	93.3	100.0	13.8	3.4	0.7	-	なし
	1 ppm	120.8	129.5	13.8	3.2	0.7	-	なし
	2.5 ppm	136.9	146.7	13.0	3.5	0.7	-	やや有
	5 ppm	146.6	157.1	13.0	3.4	0.7	-	やや有

a) 5（濃）－1（薄）の5段階評価（肉眼観察による）